

第十回 **花** **崎** **杜** **季** **女** **の** **会**

地唄舞と

義太夫で

よみがえる

巴と
義仲の

世界



新作



日時：2018年10月20日(土)

14時30分開場・15時開演(16時10分終了予定)

会場：セルリアンタワー能楽堂

(東京都渋谷区桜丘町26番1号 地下2階)

料金：一般5000円(前売り4000円) 学生2000円

チケット申し込み・問合せ：(社)地唄舞普及協会(港区高輪4-4-2)

Tel: 080-3933-8731 Fax: 03-3444-0058

Email: jutamai.fukyuu@gmail.com

金田中特別席をご用意しております。ご希望の方はお問い合わせください。

T O M O E

演目

一、地唄「菊の露」

亡き人を菊にしのおぶ、地唄舞の代表曲です。

二、新作

義太夫「巴」

作詞 千野喜資
作曲 鶴澤三寿々
作舞 花崎杜季女

木曾義仲と巴の物語を、巴の目から描いた作品です。義太夫と地唄舞で丁寧を描きます。

新作

ともろ

地唄舞と浄瑠璃の コラボレーション

地唄舞の花崎杜季女さんが、木曾義仲の愛妾であった巴を、竹本の浄瑠璃とコラボレーションしてみたいという、思い切った企画を考えられたのが三年前であった。私の遅筆が原因で発表の会が遅れたこと、申し訳なく思っている。

巴と言う女性の生没は不詳で、資料も極めて少ない。平家物語で巴の名が出てくるのは巻九「義仲最期の事」のみである。その記述は「髪長く色白の美人で、荒馬も御す一騎当千のつわもの」となっている。義仲最期の時、義仲に諭されて落ち延びる巴。豪遊武者の首を念じ切る巴。平家琵琶の世界である。広辞苑では、巴は後に尼となって越後友松に住んだ、と記している。巴という女性が実在したのは確かであろう。木曾谷の宮ノ越に義仲と巴が過ごした足跡があり、義仲と巴の墓所がある。義仲が最期を遂げた滋賀県栗津きちゅうじの義仲寺にも、巴の小さな供養墓が義仲に添っている。この寺は芭蕉翁の墓があるので知られている。

これらを踏まえて、「巴別離」と「巴懺悔」の二篇を書いてみた。日本舞踊で巴を扱ったものは少ない。能では「巴」と「現在巴」がある。「巴」が披露されるのが能舞台であることが興味深い。花崎さんが舞う巴を楽しみにしている。

作詞 / 演出

千野喜資

1933年東京に生まれ。57年慶応義塾大学文学部国文科を卒業。59年東京芝浦電気株式会社音楽普及部に入社（後の東芝EMI株式会社）し、宣伝部・制作部長室を経て邦楽レコード制作に従事、90年東芝EMI株式会社を退社。以後はフリーで邦楽作詞、伝承芸能のプロデュースを行う。

地唄舞



花崎杜季女

1990年、花崎流を立ち上げ、家元となる。以来、花崎流地唄舞の会、花崎杜季女リサイタルを毎年主催。2000年、地唄舞普及協会を設立し、地唄舞普及活動にも注力する。国内外でワークショップや講座を多数開催。現代の地唄舞の可能性追求のため、外国人アーティストとのコラボ公演、被災地いわき市での鎮魂公演、などにも積極的に取り組む。フランス、リトアニア、ポーランドなどで公演多数。東京、広島で教室を開講。



演奏者

地唄



菊聖公一

1977年、人間国宝菊原初子に入門。1995年、長谷校校記念全国邦楽コンクールグランプリ受賞。1992年より計11回のリサイタルを開催。全国各地で演奏活動及び地歌指導を展開。

義太夫



竹本越孝

1972年、竹本越道に入門。1974年、上野本牧亭で初舞台。2000年、重要無形文化財義太夫節（総合指定）認定。フランスをはじめ海外公演多数。（社）義太夫節保存会理事。

義太夫



鶴澤三寿々

1991年、竹本駒之助に入門。1994年、国立演芸場で初舞台。2001年より「素浄瑠璃の会」主宰。「女流義太夫演奏会」に出演する他、NHK「芸能檜舞台」や「三越名人会」などに出演。

笛



望月美沙輔

6歳より望月太喜輔師に師事。鳴物を望月長太郎師、太意吉師に師事。長唄を青島静子師に師事。東京藝術大学卒。古典音楽を中心に国内外に於いて活動中。